

ゾウ
椿昇 フリーダム—像と生きる

会期：2026年6月6日（土） - 11月8日（日）
十和田市現代美術館



デザイン
美山有

十和田市現代美術館では、2026年6月6日（土）から11月8日（日）まで、現代美術家・椿昇（つばき・のぼる）の個展「フリーダム—^{ゾウ}像と生きる」を開催します。

巨大生命体の造形を通して、現代の資本主義社会に問いを投げかけてきた椿昇。彼の表現は、常に人間の欲望と矛盾をあぶり出してきました。十和田市現代美術館の外庭に佇む真紅の巨大ロボットアリの《アッタ》(2008)は、日本で唯一の椿の恒久展示作品として、そのインパクトのある姿が、訪れる人々の目を惹きつけ続けています。

椿はこれまで、巨大生命体を通して環境破壊や格差拡大といった社会の諸問題を探究してきました。現代を生きる私たちは、こうした問題を日々のニュースやSNSなどを通して、無数のイメージ（^{ゾウ}像）と共に見聞きします。しかし、それらについて深く考え、他者と意見を交わす機会は、果たしてどれほどあるのでしょうか。

英語で「ザ・エレファント・イン・ザ・ルーム」という慣用句があります。大きく扱いにくい問題や、タブー視されてきた事実など、誰もが気づいていながら、あえて話題にすることを避けてしまう状況を指します。それは一見、克服すべき課題のようにも見えますが、こうした不合理で曖昧な習慣や規範によって、私たちの社会の秩序が保たれている側面があることもまた事実です。では、この同調圧力が不可避な社会のなかで、自由であること（フリーダム）とはどのようなことなのでしょうか。

本展は、制作活動40年を超える椿昇が本展のために新たに制作する地上最大の哺乳類「ゾウ」を中心に、実態を見て見ぬふりをしがちな私たちの日常の行為や思考のあり方を問い直します。

私たちはこの社会でどう生きるのか。本展は椿昇とともに探究する貴重な機会となるでしょう。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

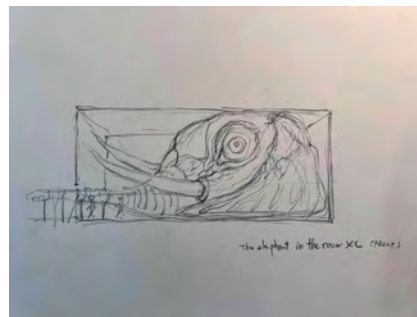
Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

展示構成

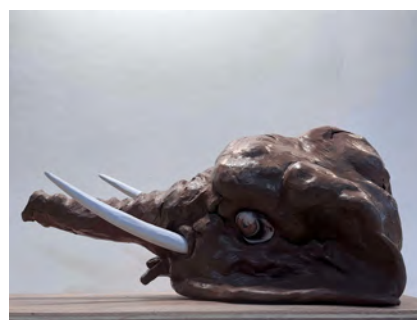
本展の象徴：最新作、巨大バルーンの「ゾウ」が現れる展示空間

本展の核となるのは、地上最大の哺乳類であるゾウをモチーフにした最新作《the Elephant in the Room》です。見開いた目を持つXLサイズのオスのゾウと、目を^{つむ}瞑った中性的なMサイズのゾウ。親子である2体の頭部を象^{かたど}った巨大なバルーン作品が、展示室に現れます。

この光景は、英語の慣用句で「誰もが気づいていながら、あえて話題にすることを避けてしまう状況」を指す「部屋の中のゾウ（the Elephant in the Room）」を想起させます。実態を見て見ぬふりをしがちな私たちの日常の行為や思考のあり方を問い直し、そのなかで自由であること（フリーダム）について探究する作品です。



《the Elephant in the Room XL》のドローイング
2025年 ©椿昇



《the Elephant in the Room XL》のマケット
2025年 ©椿昇

思考の源泉：椿昇の脳内を三次元化した「即興的制作スタジオ」

「進化ではなく、ただ変化し続けることが重要だ」と語る椿による、即興的な滞在制作空間が登場します。開幕前の約2週間、作家自らが展示室に滞在するなかで、このスタジオは形作られていきます。椿の学生時代の記憶と、フィンセント・ファン・ゴッホの傑作《夜のカフェ》（1888）へのオマージュが交錯するこの空間は、いわば椿の脳内を具現化した実験場といえるでしょう。

無数に散乱するマケットやドローイング、思考の断片であるメモ。刻一刻と変容し続けた制作プロセスそのものを目撃できる、本展で最もエネルギッシュな空間です。

発想の原点：《アッタ》誕生の軌跡を十和田のまちなかで公開

2008年の開館以来、十和田市現代美術館の外庭に佇む真紅の巨大ロボットアリ《アッタ》。本作のドローイングが、2024年に当館へ収蔵されたことを記念して《アッタ》の誕生の裏側に迫る特別展示を、十和田のまちなかの店舗にて展開します。

収蔵後に初のお披露目となる貴重なドローイングや、精巧なマケットを通して、椿の発想の原点から造形のプロセスまでを紹介します。美術館と街を歩きながら、作家の想像力の源泉を辿る、十和田ならではの回遊型展示です。



《アッタ》
2008年 十和田市現代美術館 撮影：小山田邦哉

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

椿昇によるステートメント

「決定論の前に自由意志は存在するのか・・・という難問と、時間は存在せずに変化のみが絶え間なく生成されているという理論。これらはアーティストがなぜ時系列に沿って発展しているような作品を連続させるのかという疑問にも繋がる。自由に振る舞っているようで、最も素朴な進化論の亡霊に追われて創作を行っているのは滑稽なことかもしれない。アイデアが生まれ、マケットが生まれ、完成作品が生まれる。この流れが無意識に我々を凡庸な世界へと導いているとしたらアートも実に退屈な世界なのだと思える。

こうしたある昼下がり、陸上哺乳類で最大の象とムガール帝国の象使いの囁きが降りてきた。あの空間に象の頭部が2個転がっているのは最高だ・・・。そのとき、キュレーターの長尾さんが知らせてくれて。以前台湾で展示をした時*、脳科学者の茂木健一郎さんが僕の作品について書いたテキストの中で“the elephant in the room”という言葉を使ったのだと。へーなんと素晴らしい偶然（僕が忘れてただけ・・・）だと思えたのは、遺伝子にマンモスを追ってシベリアに移動した祖先の痕跡があるとデータ会社の資料にあったことも遠因。

象使いの僕は、《アッタ》を連れてパレードをする。やっとここに戻って来れたのが嬉しいね。」

*国際芸術祭「Kuandu Biennale 2016 - Slaying Monsters」（台湾、2016）

椿昇（つばき・のぼる）



© 椿昇

アートテックディレクター。京都芸術大学美術工芸学科教授。
1953年京都府生まれ。京都市立芸術大学美術専攻科修了。「Against Nature: Japanese Art in the Eighties」展（サンフランシスコ近代美術館ほか、アメリカ、1989-91年）に《フレッシュガソリン》を出品。「第45回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア、1993年）ではアペルト部門に参加。「横浜トリエンナーレ2001」（神奈川）で《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》を出品。主な個展に、「Noboru Tsubaki」（サンディエゴ現代美術館、アメリカ、1992）、「国連少年」（水戸芸術館、茨城、2003年）、「椿昇2004-2009: GOLD/WHITE/BLACK」（京都国立近代美術館、京都、2009年）、「PREHISTORIC_PH」（霧島アートの森、鹿児島、2012年）など。「醤の郷+坂手港プロジェクト」（瀬戸内国際芸術祭2013、小豆島町、香川）、「AOMORIトリエンナーレ2017」（青森市）、「ARTISTS' FAIR KYOTO」（京都市、2018年-）などの芸術祭でディレクターを務める。

<https://www.metapolice.net/>

十和田市現代美術館の常設作品として、《アッタ》を展示している。

パブリック・プログラム ※会期中、下記の他にもプログラムを予定しています。詳細は後日 web サイトにて発表します。

作家本人によるアーティスト・トーク

日時 2026年6月6日（土）14:00—14:40

会場 十和田市現代美術館 市民活動スペース／料金：無料 ※要企画展チケット

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

開催概要

- 展覧会名** 椿昇 フリーダム一像と生きる^{ソウ}
- 会期** 2026年6月6日（土）－ 11月8日（日）
- 開館時間** 9：00－17：00（入場は閉館の30分前まで）
- 休館日** 月曜日（祝日の場合はその翌日）ただし8月3日、8月10日は開館。
- 会場** 十和田市現代美術館
- 観覧料** 一般1800円（常設展含む）、20名以上の団体1600円、高校生以下無料
- 主催** 十和田市現代美術館
- 後援** 青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、エフエム青森、
デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会
- 企画** 長尾衣里子^{えりこ}

十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138

www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

広報用図版

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙をFAXまたはE-mailにてお送りください。

FAX 0176-20-1138

TEL 0176-20-1127

EMAIL media@towadaartcenter.com

住所 034-0082 青森県十和田市西二番町10-9
十和田市現代美術館 広報 大谷 行

画像ご使用に際して

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

広報用図版 申請フォーム

媒体名

媒体ジャンル 新聞 / 雑誌 / 美術誌 / テレビ / WEB / その他 ()

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【1】



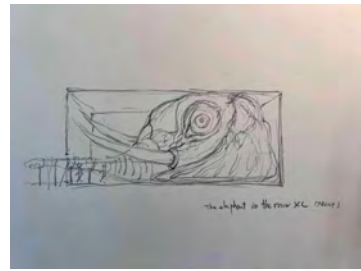
「椿昇 フリーダム一像と生きる」
メインビジュアル
デザイン：美山有

【2】



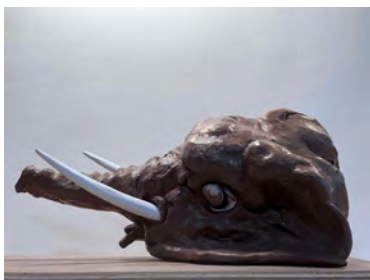
《アッタ》
2008年 十和田市現代美術館
撮影：小山田邦哉

【3】



《the Elephant in the Room XL》の
ドローイング
2025年 ©椿昇

【4】



《the Elephant in the Room XL》の
マーケット
2025年 ©椿昇

【5】



《メタポリス》
1997年 ©椿昇

【6】



《マーリアン》
2012年 撮影：顧剣亨

【7】



ポートレート ©椿昇

【8】



十和田市現代美術館 外観

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com